

向陽の「挑戦」は続く！！

今年の夏、高校の部活動では九州・全国大会で大いに活躍し、学園に感動と勇気を与えてくれました。さらに目標を高く持ち挑戦して欲しいと思います。

また各学科では、日々の学習で知識を深め、実習や研修で技術を磨き各種検定に挑みました。これからは国家試験に挑みます。そして3年生は進路実現に向けて挑戦します。自分の未来に向けて頑張ってください。

いま「高校」では！

バドミントン部(女子)

全国私立高等学校選抜大会結果(8/26～福岡)

予選リーグ1位(48校参加)

決勝トーナメント 1回戦:3-0 奈良大学付属

2回戦:0-3 新田(愛媛)

順位決定戦 1回戦:3-1 福岡常葉

2回戦:3-0 聖心ウルスラ(宮崎)

3回戦:3-0 滋賀短大付属

全国9位

全日本ジュニアオリンピック大会結果(9/13～北海道)

ダブルス:前山・藤原組 1回戦:2-0 鳥取

2回戦:1-2 長野

バレーボール部(女子)

全九州私立高等学校選手権大会結果(8/26～福岡)

予選リーグ敗退(42校参加)

ソフトボール部(女子)

県高等学校新人大会結果(9/20～)

準決勝:2-4 九州文化学園

向陽

ファイト！！

「向陽には自分だけの未来がある！」

向陽高校での3年間は、「生き方を考える時間だった」と話してくれた卒業生がいます。

◆パティシエとして活躍している卒業生は、「仲間と支え合うことで、挑戦できる自分に出会えた」と語ります。

◆寿司職人となった卒業生は、「一皿一皿に『相手を感じる気持ち』を込めています」と話してくれました。

◆大学へ進学した卒業生も、「知識以上に、人との向き合い方を学べたことが一番大きかった。『自分で考える姿勢』が支えになっています。」と話します。

「新たな教育」 創立101年目の向陽高校ではポジティブ教育を展開しています。すべての学科・学年で、「生徒の幸福(ウェルビーイング)と成長を両立する教育」に取り組んでいます。学力だけでなく、「心の強さ」や「他者とのつながり」、「意味を感じて生きる姿勢」を育む教育。それは、向陽高校が100年にわたり大切にしてきた実業教育の土台と、建学の精神「奉仕」に根ざした、新たな挑戦でもあります。向陽高校には、誰かを思う経験を重ねるうちに、「自分だけの未来がある」と思えるようになっていく、そんな日々が、ここにはあります。(高校HP:KOYO's Letter③より一部抜粋)

2025 入試説明会 10/18, 11/8

皆様、沢山のご支援、応援ありがとうございました。
これからも向陽学園は未来に向かって挑戦します。



昭和十九年一月二十五日、大村の第二海軍航空廠(しょう・飛行機の製造修理場)が米空軍の爆撃をうけ、東洋一を誇った広大な施設が一時間余で壊滅的に破壊された。この時三〇余名の戦死者が出た。当時学徒動員とか、挺身隊とかいって、大村女子職業学校(向陽の前身)ほか大村、諫早、島原など県内および県外の

学校からも多数の上級生が先生に引率されて空襲で作業をしていたので、生徒からも多数の犠牲者が出た。本校では本科三年松尾恵美子、平湯辰枝、四年小川良子、向井美代子さんの四名が十五、六歳の若さで散華されたのである。毎年十月第四日曜日に、殉職者の慰霊祭が慰霊塔公園で行われ、各校の同窓生も県内県外から参列しておられる。わが向陽の歴史にも、さまざまな激動の時期があった、同窓の尊い血潮が流されたことを忘れぬようにとペンをとった次第である。

向陽学園常任理事

宮川 龍光

“太平洋戦争と向陽学園”

— 四人の御霊・安らかに —

10.25「諸先輩方の尊い命が犠牲になったことを忘れない」

向陽高校の前身である「大村女子職業学校」の生徒が学徒動員で作業中、昭和19年10月25日の大村大空襲で若き命を失いました。私達は、15、16歳で亡くなられた諸先輩方の尊い命が犠牲になったことを忘れてはいけません。

左の記事は昭和60年2月向陽学園ニュース第2号に掲載された記事です。

その時 向陽は!!!

「不安」は成長への原動力

50年前の1974年(昭和49年)、向陽高校ではフェンシング部が創立され、ソフトボール部が県高校総体で優勝しました。その4年前の修学旅行先は大阪万博で、戦後復興の雰囲気を感じたことでしょう。その年の新聞には「自動販売機が普及し人と話さなくても物を買えるが、人との交流や言葉を大切にすることが薄れている」という不安の声がありました。経済的に豊かになりましたが、人口の増え過ぎが問題視され、「子どもは2人まで」という宣言まで出されました。時は流れて2025年、今は人口減少が問題になり、働く人や地域とのつながりが不足し不安の材料になっています。さらに、人工知能(AI)や無人化の技術が進み、「人と話さなくても暮らせる社会」が広まって、便利になったいっぽうで不安を感じる声もあります。19世紀の哲学者キルケゴールが「不安は教育者である」と述べたように、不安は悩みでもあります。逆に成長へ導く原動力にもなります。その時代や日々不安はありますが、私達はその不安の「よりよい解決法はなにか」という問いへの答えを考えることが大切です。



参考文献

- ・朝日新聞社。(1974年4月20日)。話し言葉「自動販売機」。
朝日新聞 東京版朝刊。
- ・石田瞳。(2024)。日本における少子化の要因。
法政論叢, 60(2), 35-49。
- ・都築幸将, 東莉沙, 後藤菜, 小山祥佑, & 清水美幸。
(2013)。自動販売機存在価値向上による安全な社会の構築に対する一提言。未刊行卒業論文。
- ・キルケゴール, S. (2019)。新訳『不安の概念』(村上恭一訳)。
平凡社ライブラリー。(原著 1844 年刊)

<シリーズ> 100 GO BEYOND~次の100年へ向けて~



※ポジティブ教育について、高校HPよりご覧いただけます。

<シリーズ> 100 GO BEYOND~次の100年へ向けて~

「たちばな募金」ご協力のお願い

本学園は令和6年に創立100周年という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、地域の皆様、保護者の皆様、そして卒業生の皆様方の長年にわたるご支援とご厚情の賜物と、深く感謝申し上げます。このたび私たちは、向陽学園の教育理念の根幹である建学の精神「奉仕」の心を次世代にも引き継ぎ、さらに豊かな学びの場を築くために、「教育振興協力金」として新たに「たちばな募金」を立ち上げることといたしました。この名称には、未永く地域に根差し、実りある教育を育み続けたいという願いを込めています。この募金は、向陽高等学校のみならず、向陽幼稚園および長崎リハビリテーション学院を含めた、学園全体の教育環境の充実および施設整備に役立ててまいります。

つきましては、「たちばな募金」の趣旨にご賛同賜り、ご支援を心よりお願い申し上げます。



※詳しくは右学園ホームページをご覧ください。



たちばな募金



学校法人 向陽学園
長崎リハビリテーション学院 創立44周年

「夏休み体験デー」開催~未来の療士~8/1

今後のオープンキャンパス予定

10/18(土)、11/2(日)、
11/16(日)、1/24(土)、3/27(金)

「新第2体育館完成」



新第2体育館(9/20)



新校舎建設開始(7/15~)



新校舎建設中(9/3)